



# にしじ

## 島田安博病院長 就任のご挨拶 ... P2

「人を診る」ということ ..... P3  
 初期臨床研修を終えて～研修を終えた感想と今後の抱負～ ..... P4～5  
 学会出張報告 ..... P6  
 高知県がん検診啓発イベントに参加して ..... P7  
 高知医療センター イベント情報 ..... P8

# 4

APRIL 2018 Vol.150



吉川清志前病院長より島田安博新病院長にバトンが渡されました。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

# 就任の ご挨拶

病院長

## 島田 安博

Yasubiro Shimada



### 高度急性期医療に高齢者医療を加えた 地域医療を支える中核病院に

平成30年4月1日の高知医療センター病院長(第5代)就任にあたり、ご挨拶申し上げます。2005年2月26日に高知県立中央病院、高知市立市民病院が統合され、新しい自治体病院として診療が開始されました。開院14年目となりますが、この間に疾病構造、社会環境など医療を取り巻く環境は大きく変化しております。新病院長就任にあたり、3年半の高知医療センターでの診療経験も含め、高知県の医療の現状を考えてみたいと思います。

超高齢者県として最先端を進んでいる高知県ですが、75歳以上の高齢患者が急激に増加しており、入院や救急でもその比率は確実に増加してきております。これまで、がん、循環器疾患、脳血管疾患などが主な死因で推移してきましたが、今後は、高齢化を反映して単一疾患ではなく複数の背景疾患を有する患者が増加してきます。高齢患者の増加は、従来の医療の目的を変えることを迫り、「治癒・延命を治療目的とする」から、「その人らしい人生の最終段階を迎える」ことに医療が係わるようになってきています。

私の専門領域のがんにおいても、高齢患者に手術、抗がん剤などを何処まで行うのかという大きな課題があります。かつては医療経済的な効率から議論されてきましたが、今は患者自身の人生観に対して医療がどのような関わり方をすべきかについて、医療者はもとより患者自身、家族、そして社会が深く考えなければならない時代になったと思います。昭和30年代には多くの患者は病院ではなく、開業医の先生が患者の自宅で看取っていました。家族もその場に立ち会い、亡くなったあとは故人の思い出話をするという光景がありました。平成の時代では、患者は入院し、最新医療技術のなか、本人の意思とは関係なく生かされるという現代的医療を受けるようになりました。ダビンチによるロボット手術、分子標的治療薬、IMRT(放射線照射の新しい治療法)など革新的な医療技術が全国どこでも利用できるようになっています。これらの新医療技術は、生存期間の延長という素晴らしい成果をもたらしたことは事実です。しかしながら、副作用として日々の日常生活の低下(QOL低下)や高額な医療費負担という大きな負担を患者や社会に課してきました。今までの医療は、主に65歳までの患者を対象として長生きをすることを唯一の達成目標として治療開発が行われてきました。ところが、高齢者患者さんの希望は、できるだけ自宅で、症状の少ない時間を過ごすことができることを一番に希望しているように思いま

す。80歳を越えた患者さんは、長生きよりも、毎日の生活の質に重きを置いているように思います。医療者は、このような現状を認識して、患者さんが医療に求めるものを再確認して医療提供を行う必要があると思います。最高、最新の治療とともに、患者さんに最善である治療選択を共に考えることが医療者の仕事になってきています。この中には、積極的な治療を選択せず、自然に任せ、大好きな自宅での残された時間を家族と過ごすことも患者さんにとって最善の選択であることも含まれます。高齢者社会は既に始まっており、高知県は都会に10年以上も先んじて来たるべき未来を経験しています。医療者だけではなく、高齢者社会でどのような医療を継続するかを患者さんやご家族と真剣に議論しなければいけないと思います。

高知医療センターは、県民市民の皆さまのご要望にお応えできるように、救命救急、循環器病、総合周産期母子医療、がん、こころのサポート、地域医療の6センターを有し、各診療科も日々診療に励んでおります。また、多くの地域の医療機関、クリニックとの協働により高度急性期病院としての機能を果たすべく努力しています。医師の出身大学も多様であり、高知県立大学、高知学園短大などから多くの有能な人材を送っていただいております。南国高知の日差しのように眩しいくらいの笑顔の新人を今年も沢山採用することができました。

「高度急性期医療」と「高齢者医療」を両立させることが、今後の高知医療センターの重要な課題と考えており、スタッフ全員で協力して最善の医療を提供できるように努力したいと思います。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

#### 略歴

##### 高知県安芸市出身

- |            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 1981~1983年 | 岡山大学医学部医学科卒<br>虎の門病院内科レジデント研修       |
| 1983~1987年 | 香川医科大学第一内科医員、助手                     |
| 1987~1999年 | 国立がんセンター中央病院内科医長                    |
| 1999~2000年 | 国立医薬品食品衛生研究所<br>医薬品医療機器審査センター 主任審査官 |
| 2001~2014年 | 国立がん研究センター中央病院<br>副院長(研究担当)、消化器内科長  |
| 2014年      | 高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター<br>副院長・腫瘍内科長 |
| 2015年      | 同(兼)医療安全管理センター長<br>臨床試験管理センター長      |
| 2017年      | 同(兼)がんセンター外来化学療法センター長               |



# 「人を診る」ということ

初期臨床研修医 入吉 宏紀

2年間の初期研修を終えての思いについて、拙文ながら綴らせていただきます。

研修医として働き始めた当初は、カルテの使い方から院内での振る舞い方、患者さんとの接し方、様々な手技など本当に分からないことだらけで、日々研修医2年目の先輩や上級医の先生におんぶにだっこの状態でした。そんな研修医生活も1年位するとだいぶ慣れ、疾患や病態に関する知識も身につけてきて、自信を持ってできることも少しずつ増えてきました。しかし、研修医2年目の半ば過ぎになったあるとき、ふとこれまでできていなかったことがあると思うようになりました。それは、自分がみていたのは患者さんという人そのものではなく、患者さんが抱えている病気だったのではないかということです。高知医療センターは急性期の病院であり、重篤な疾患を抱えておられる方が多く受診・入院されているという環境のため、つい病気の診断や治療の方に目が行きがちであったように思います。働き始める前は、「病気を見るのではなく、患者さんを診よう」と思っていたにも関わらず、実際に働き始めると自分の目の前のやるべきことをこなすことに必死で、そのことを忘れてしまっていました。

それに気がついてからは、まずは患者さん個人のことにしてもっと知るようになろうと心がけ、話を聞くようにしました。趣味のこと、仕事のこと、好きな食べ物のこと、好きな動画のこと、孫のこと、作っている野菜のことなどなど。そのように患者さんに接し始めると、あることが変わりました。それは、患者さんの表情です。これまで体調面などについて質問していた時はそれほど表情豊かではなかった患者さんも、患者さん自身に関することについて聞くと、笑顔で嬉しそうに話してくれるようになり、患者さんの方からも病気や治療のことなどについて積極的に質問をしてくれ、一緒になって治療をしているような気がしました。また、ありがたいお言葉をかけていただけることが多くなりました。「先生は話を聞くのが上手ですね。きつといい先生になると思います。頑張ってください。」とか、「先生に診てもらって本当によかったです。ありがとうございました。」などと言っていて、

私としては大変嬉しく、自分の存在価値や、やりがいもより一層感じられるようになりました。

私は今年の4月からあと7年間ほど、高知県内のへき地医療機関に勤務する予定です。初期研修医として過ごした高知医療センターのような十分な人材や設備が整った高次医療機関ではないところで働くことに対して、初めは億劫な気持ちや大きな不安がありました。しかし研修医2年目が終わろうとしている今、不安はまだありますが、億劫な気持ちはなくなってきたように思います。地域では地元の方々とのふれあいの機会が多くなり、患者さん自身のことに加え、生活背景のこと、家族のことなどを知れるようになるチャンスが多いのではないかと思います。つまり「人を診る」ということが、高次医療機関にいるときよりももっとできるようになるのではないかと考えています。

「人を診る」ということは、その患者さんとの良い信頼関係を構築し、良い医療を提供できることにつながると私は信じています。

これから先も「人を診る」ということを忘れずに地域で経験を積み、医師として、人として成長を遂げたいです。そしてしばらく先にはなりますが、将来的にはたくさんの方を勉強させていただいた高知医療センターにまた戻って来て、仕事ができればいいなと思っています。

最後になりましたが、この場をお借りしてお世話になった全ての方々に、深く御礼申し上げます。そして今後ともよろしく願っています。



# 初期臨床研修を終えて

## ～研修を終えた感想と今後の抱負～

医科



**相浦 遼**  
あいらりょう

2年前に県外からこの新天地へ来て、右も左も分からない私でしたが、先生方やコメディカルの方々に丁寧に指導していただき、医師として成長できた気がします。医療センターは積極性を重視する病院であり、

自分のビジョンを明確にするほど、それをサポートしてくれて、とても働きやすい環境を作ってくれました。

来年度からは、また県外へ戻り脳外科医として頑張っていきます。2年間ありがとうございました。

医科



**浅井 督子**  
あさいとくこ

指導医の先生方やコメディカルの方々はじめ地域の皆さまのあたたかなご支援のおかげで、2年間の初期研修も無事終わりを迎えました。2年前は目の前のことをただこなす毎日でしたが、後期研修にむけてまずは1人前の皮膚科医になるという新たな目標を見つけることができました。

4月からは高知大学皮膚科に所属することになります。この医療センターでの研修を活かして研鑽を積みたいと思います。本当にありがとうございました。

医科



**入吉 宏紀**  
いりよしひろき

様々な科をローテートさせていただきましたが、どの科でも勉強になることがあり、大変有意義な2年間の初期研修になりました。今後しばらくは高知県内のへき地の医療機関で内科医として勤務する予定です。高知医療センターで勉強させていただいたことを地域で活かし、また地域でも多くの学びを得たいと思います。

最後に、お世話になりました先生方やスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、お世話になりました先生方やスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

医科



**江端 千尋**  
えばしちひろ

先生方、コメディカルの皆さま方に温かくご指導いただきまして、2年間充実した研修生活を送ることができました。

時には大変なこともありましたが、高知医療センターで研修でき本当に良かったと、感謝しております。

4月からは当院総合診療科で後期研修を行う予定です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

医科



**大貫 京子**  
おおぬききょうこ

同期や各科の先生方を始め、多くの方々に支えられ2年間の初期臨床研修を乗り切ることができました。

皆さまのおかげで、少しずつですが成長できたような気がします。

来年度からは県外で働くこととなりますが、高知医療センターで学んだことや経験を活かしてこれからも頑張っていこうと思います。

2年間本当にありがとうございました。

医科



**高橋 成彦**  
たかはしなるひこ

2年間、大変お世話になりました。昨年の自分からどれくらい成長できたのか実感は湧きませんが、この研修での経験を活かしてこれからも邁進していきたいと存じます。

この4月からも引き続き医療センターの産婦人科にて研修させていただきます。1日も早く高知の医療に貢献できるよう精進します。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

初期臨床研修を修了される12名(医科11名、歯科1名)の先生方、厳しい研修の日々を立派に乗り越えられ、本当によく頑張ってお勉強をされたと思います。大変お疲れさまでした。そして「修了認定」おめでとうございます。さあ、これからは各自が選択された専門診療科の道での新たな専攻科研修のスタートです。先生方皆さんが“For the Patients!”の精神を決して忘れることなく、各々の道を極め、益々大きく発展されることを確信しています。高知医療センターで学んだ多くのことを活かしてこれからも是非頑張ってお活躍ください。

【臨床研修管理センター長 澤田 努】

医科



竹内 三晴  
たけうち みはる

ています。

4月から高知県内で内科医として働きます。まだまだ未熟ですが、地域医療に貢献できるよう、頑張ります。

2年間とても楽しかったです。ありがとうございました。

最初は病棟業務も当直も慣れなくて大変でしたが、基本的なことから専門的なことまで教えていただき、学ぶことも多く充実した研修医生活でした。いつも優しくご指導下さった先生方にはとても感謝

医科



田所 司  
たどころ つかさ

きました。

来年度からは高知大学の麻酔科で働くことになりませんが、高知医療センターで学んだことを活かしてがんばっていきたくと思います。

2年間ありがとうございました。

2年間大変お世話になりました。2年間の研修では各科の先生方、看護師さん、数多くのスタッフの方々にご指導いただき、皆さまにはご迷惑をおかけしましたが、大変充実した研修生活を過ごすことが

医科



田邊 義貴  
たなべ のりたか

いただきました。

4月から引き続き当院の総合診療科にてお世話になります。少しでも早く一人前の医師になれるようにこれからも努力を重ねていく所存でございますので今後ともよろしくお願ひいたします。

各科の先生方や院内スタッフの方々にご指導いただきながら充実した2年間を過ごすことができました。ありがとうございました。

2年間で院外を含め様々な診療科で研修させて

医科



細川 雄慎  
ほそかわ ゆうま

こともできました。

今後は脳神経外科医として、より深い知識や手技を習得するとともに、医師として高知県に貢献していきたいと思ひます。先生方、スタッフの皆さま、熱心なご指導を心から感謝しています。ありがとうございました。

あっという間の研修期間でした。様々な診療科で経験を積むことができ、とても充実した2年間を過ごすことができました。院外での研修でも当院で学んだことを活かしつつ、そのうえでさらに知識を深める

医科



道上 怜奈  
みちうえ れいな

ります。

この2年間で学んだことを活かし、高知県の医療に貢献できればと思ひます。本当にありがとうございました。

今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

2年間本当にお世話になりました。

各科の先生方や多くの医療スタッフの方々にご温かく指導していただき、とても充実した研修生活を送ることができました。

研修先に高知医療センターを選択して本当に良かったと思ひます。

歯科



須藤 皓士  
すどう こうし

ご指導いただいた先生方、スタッフの皆さま大変お世話になりました。将来自分も歯科医師として高知県の方々の方々の力になれるよう一層精進して参ります。1年間ありがとうございました。

1年間の臨床研修を終えて、当院では母校の研修制度では学ぶことができなかったであろう様々なことを教えていただきました。また院外研修においても先生方にごしっかりと指導していただきました。自分としては口腔外科から一般歯科診療まで幅広く勉強することができ少しではありますが成長できたのではないかなと思ひます。

# 第57回：医療センター職員による学会出張報告



## 第52回 ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議 in 米国フロリダ州オーランド 2017.12.3 ~ 7

薬剤局 川田 敬

### ～初めての国際学会に参加して～

私は2007年から高知医療センターに勤務をはじめ、今年で12年を迎えました。私の目指す理想の薬剤師像は、臨床で遭遇する問題に積極的にかかわり、学術的な視点から解決につながる情報を提供するというものです。今まで多数の学会発表や複数の論文執筆を行ってきましたが、その功績を評価され、今回日本病院薬剤師会から助成を受け、国際学会(第52回ASHP\*ミッドイヤー臨床薬学会議：2017/12/3-7)にて発表する機会をいただきました。私の中で大きな経験となりましたので、皆さまのご参考になれば、と思いこの場を借りて報告させていただきます。

国際学会への参加は初めてであり、多くの不安がありました。旅行の手配や英語でのコミュニケーションなど不安に思うことが多くありました。国際学会のポスターの様式は横長で日本とは異なっており、内容も細かく規定されているため今までの方法は通用しませんでした。しかしできることはすべてやろう、と意気込みあらゆる対策をとりました。英語のイメージトレーニングのほか、ポスターに関しては規定を十分に読み込んだ後、どうしてもイメージがわからない部分は当院の循環器内科医 尾原義和先生に見本をお示しいただき、これを参考に作成しました。

飛行機を乗り継ぎ、高知から18時間かけて学会会場であるフロリダ、オーランドに到着しました。英語での発表ということで直前までナーバスな気持ちでしたが、英会話ではなく学術的な発表を英語でするだけだ、と度胸を決め、発表に向かいました。私の研究内容は、「急性期脳卒中患者におけるラメルテオン治療耐性患者での追加睡眠薬選択の検討」という題名で、過去4年間に入院治療を受けた急性期脳卒中患者1600症例を対象とし、各睡眠薬の選択により、せん妄発症割合や睡眠の改善への影響を後ろ向きに解析したものです。新規睡眠薬のスポレキサントを追加することで睡眠の質が改善し、せん妄発症割合が減少したという結果でした。開始時間直後から予想以上の質問をいただきました。英語

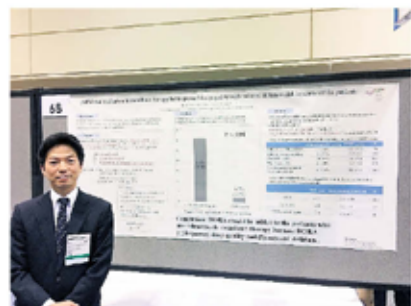


での質問に対しても何とか対応しよう、ディスカッションしようとしたところ、質問者の方も熱心に聞き取ってくれこちらにわかりやすくお話しただき、有意義なディスカッションを行うことができました。1時間半の発表時間が短く感じられるほど多くの質問をいただきました。研究の内容が良ければ、国籍を問わず興味を持ってもらえる、また積極的にコミュニケーションを図ろうとすれば有意義なディスカッションができるということが発見でした。これは今後の自身成長にとって大きな経験になりました。

今回、国際学会に参加して強く意識したことは、学術的な活動は世界に開かれている、ということです。病棟で活動を行う中で、さまざまな臨床上的問題に遭遇します。それに対して科学的にアプローチし、着実な学術活動を行うことで、その問題を解決できます。その成果は普遍的なものであり、自分の病院でとどめておくことはもったいないことです。したがって普段の臨床活動をその場で終わらせるのではなく、国際学会での発表や英文論文執筆により自分たちの良い点を世界にアピールするべきなのだ、と感じました。

当院では「論文を書こう！研究会」を定期的で開催しており、院内外、職種を問わず学術活動のサポートを行っています。この研究会では、各自が自分の興味があるテーマを持ち寄り、皆でディスカッションを行うというものです。私もこの研究会を通じて2報\*\*の英文論文を掲載することができました。また上記の研究成果についても、現在英文論文として鋭意執筆中です。研究会に興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひ薬剤局 川田までご連絡ください。

最後になりましたが、物心共に御支援いただきました前病院長 吉川清志先生、前薬剤局長 宮本典文先生、研究デザインから英語での発表の練習に至るまでご指導いただきました脳神経外科 太田剛史先生、快く自身のポスターをお貸しいただきました循環器内科 尾原義和先生、長期の出張にもかかわらず応援いただきました薬剤局の皆さま、出張の手続きなどご配慮いただきました事務局の皆さま方、そして普段から私を支えてくれる両親と妻、ちいさい娘たちに感謝いたします。



\*ASHP: The American Society of Health-system Pharmacists  
\*\*Kawada K, Ohta T et al.: J Stroke Cerebrovasc Dis.2016 ;25 (10):2513-8.

Kawada K, Ohta T et al.: J Stroke Cerebrovasc Dis.2018 in press.

# 高知県 **がん検診** 啓発イベントに参加して

ほがらか 5B 乳がん看護認定看護師 小笠原 美千代

高知医療センターの乳がん看護認定看護師の小笠原です。乳がん看護認定看護師は、乳がん患者さんやそのご家族が、乳がんに向き合えるように、また納得した治療が受けられるようにサポートを行っています。また、その他にも一般市民の方々に対する乳がんの啓発活動という大切な役割もあります。

みなさんは高知県がん検診啓発イベントをご存知でしょうか？

高知県では10月が「高知県がん向き合う月間」と定められています。10月は「乳がん制圧月間」でもあり、乳がん検診の受診を啓発・促進する「ピンクリボン運動」が全国で展開されます。10月の「高知県がん向き合う月間」及び「乳がん制圧月間」に併せ、県内各地でさまざまなイベントが開催されています。

(－高知県庁ホームページより抜粋－)

高知県がん検診啓発イベント(以下、がん検診啓発イベント)は10月に行われているイベントのひとつで、平成29年はイオンモール高知で行われました。このがん検診啓発イベントに乳がん看護認定看護師として参加させていただき、乳がんの啓発活動を行いました。今回は、がん検診啓発イベントへの関心を深めていただくと共に、乳がん看護認定看護師の活動を知っていただく機会にしたいと考え、昨年のがん検診啓発イベントについてご紹介します。



昨年は、あいにく台風と重なりましたが、ショッピングモールという場所柄、がん検診啓発イベントにも多くの方々が来場されました。がん検診啓発イベントは、検診クイズラリー、がんに関するパネ

ルの展示、がん検診受診率向上プロジェクトによるチラシ配布、空くじなしのガラガラ抽選などが行われており、参加すると高知家健康パスポートのヘルシーポイントがもらえるなど、来場者が楽しみながらがんの知識が得られるイベントです。

がん検診啓発イベントへの参加は4回目となりました。乳がんの啓発活動としては、他施設の乳がん看護認定看護師と協働し、乳房触診モデルを使った乳房のセルフチェック体験や乳がんの無料相談コーナーを担当しています。乳がん相談コーナーには 乳房のセルフチェック体験に来られた方や乳がんを体験された方、乳がん患者さんを支援されている方のほか、パートナーと一緒に来場される方も数名いらっしゃいました。



乳がん相談コーナーに訪れる人数は一昨年より増加していました。乳がんは女性のがん罹患率をもっとも高い疾患で、近年は著名人の乳がん罹患に関する事柄がマスメディアで報道されるなど、乳がんが注目される傾向にあります。このような社会的背景もあり、人々の乳がんに対する関心が高まっていると認識しました。

乳がんは自分で見つけることができる疾患です。40歳以上の検診年齢になれば、2年に1回の乳がん検診を受けることが推奨されていますが、早期発見のためには月1回の乳房のセルフチェックも不可欠です。一人でも多くの女性の方々に、乳がんに対する正しい知識と早期発見のための乳房のセルフチェックや乳がん検診受診に繋がるような啓発活動を今後も精力的に行っていきたいと考えています。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
<b>高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)</b>						
4月	9	月	内容	スキンケア1	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	8:40～11:00	対象	新人看護師(10名)
	講師			高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師		
	9	月	内容	弾性ストッキング	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	11:00～12:00	対象	新人看護師(10名)
	講師			高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師		
	9	月	内容	口腔ケアの基礎 ※定員に達しました	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	13:00～15:00	対象	新人看護師(4名)
	講師			高知医療センター 摂食・嚥下障害看護認定看護師		
	10 11	火 水	内容	食事介助と摂食・嚥下障害患者に 対する援助 ※定員に達しました	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室
			時間	13:30～17:00	対象	新人看護師(各4名)
	講師			高知医療センター 摂食・嚥下障害看護認定看護師		
5月	11	金	内容	救急看護1 ※午前は定員に達しました	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	8:30～12:30 13:30～17:30	対象	新人看護師(各4名)
講師			高知医療センター インストラクター			
16	水	内容	ストレスマネジメント1	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3	
		時間	9:00～12:00	対象	新人看護師(15名)	
講師			高知県立大学 教員			
6月	1	金	内容	フィジカルアセスメント1	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	8:30～16:30	対象	新人看護師(5名)
	講師			高知医療センター 急性・重症患者看護専門看護師		
	8	金	内容	与薬技術3 ※定員に達しました	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	14:30～17:00	対象	新人看護師(10名)
	講師			高知医療センター 認定輸血検査技師・教育担当者		
29	金	内容	高齢者ケア1	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3	
		時間	9:00～10:30	対象	新人看護師(15名)	
講師			高知県立大学 教員			
7月	6	金	内容	医療安全2	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	14:30～17:00	対象	新人看護師(10名)
講師			高知医療センター 医療安全管理者・教育担当者			
<p>【お申込み】            申込み用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上            FAXにてお申込みください。申込み代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766            【お問合せ】高知医療センター 看護局 教育担当 藤本 TEL:088(837)3000(代)</p>						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

桜の便りが聞こえてきたかと思えば新年度が始まりました。

年度末には吉川病院長をはじめ長く医療センターで勤務された退職者の方々を送り出したばかりですが、まだ心に残るその別れの余韻もつかの間に新たな出会いを迎えています。

高知医療センターは島田病院長が就任され新体制での発進です。

私たち地域医療連携室でも新しく配属された方々を迎えて、さらに一丸となって患者さんの支援に取り組んでいます。

まずは自分自身の周りに目を向けて、机の上もピカピカに！新たな環境の中で、気持ちを一新して、日々の仕事に向き合っていきたいです。

(地域医療連携室 西原)

平成30年4月1日発行  
 にじ4月号(第150号)  
 毎月発行  
 編集者: 広報委員会  
 発行者: 島田 安博  
 印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:  
 高知県・高知市病院企業団立  
**高知医療センター**

〒781-8555 高知県高知市池 2125-1  
 TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp